

高精細レプリカで舟形町へ里帰り

国宝「縄文の女神」 複製を製作



(完成した国宝「縄文の女神」の高精細レプリカ)

大塚ホールディングスの子会社である大塚オーミ陶業株式会社（本社：大阪市中区、代表取締役社長：大杉栄嗣）は、山形県舟形町出土の国宝「縄文の女神」の複製を製作しました

大塚オーミ陶業は、世界の名画を陶板で原寸大に再現・展示した「大塚国際美術館（徳島県）」（<https://o-museum.or.jp/>）に代表されるように、半永久的な耐久性を有する陶板により、芸術作品・文化財を精密に複製する業務を行っています。

国宝「縄文の女神」は、舟形町の西ノ前遺跡で1992年8月4日に発掘、2012年に国宝に指定され、現在は山形県立博物館に所蔵されています。舟形町内で原物を見ることができないため出土した舟形町で人々が国宝に触れる機会を増やし、その魅力を広く知っていただくことを目的に、舟形町より依頼を受けて複製の製作を行いました。製作した複製は、11月10日から舟形町で開催される総合文化展でお披露目されます。

陶は耐久性が高く、変色もしないことから、触れて質感を体感することもできます。陶で複製することにより、原物は保存しながらも多くの人への公開を可能とし、その文化的価値や魅力を国内外へと広く永続的に伝えることが可能です。

このような陶の利点を生かし、この複製は触れることはもちろん、持ち上げたり、床面のミラー越しに足の裏面を観察したりすることもできる展示方法となっています。触れて、五感を通して国宝を楽しむことで、地元の子どもたちや地域の方々に、縄文の女神をより身近に感じ、地元に対する誇りや愛着の形成につなげることが期待されます。さらに舟形町から発掘された国宝「縄文の女神」を県外の人にも知っていただくために、この複製が広く活用されます。

①縄文の女神について

縄文の女神は、山形県舟形町の西ノ前遺跡で出土した縄文時代中期の土偶です。頭部、胴部、腰部、脚部が分かれて出土されましたが、完全に復元され高さ約45cmを誇る現存最大の立像土偶としても知られています。また、均整の取れた八頭身の美しい姿形や曲線と直線を組み合わせた華麗な様式美は、学術的・造形的にも日本を代表する土偶として位置づけられています。「縄文時代における土偶造形の到達点を示す優品」として、2012年9月6日に山形県内としては6件目の国宝に指定されました。

②複製の製作

複製製作では舟形町から3次元計測データを提供いただき、当社で編集・製作を行いました。データを活用することで形状だけでなく、表面の凹凸も忠実に再現することができます。細かな質感は原物写真を確認しながら当社の技術者が手作業でレタッチを行い、ざらつきや色彩などを再現。さらに、山形県立博物館学芸員の方々から指導・助言のもと、原物と比較をしながらの検品を経て、重さまでほぼ同じの高精細レプリカを完成させました。



複製に補色をする様子



国宝「縄文の女神（中央）」と複製（両端）を並べて検品

③国宝「縄文の女神」の複製について

製作対象：山形県立博物館 国宝土偶「縄文の女神」

高さ：約 45cm

重さ：約 3.155 kg

データ提供・撮影：山形県舟形町

データ編集・製作：大塚オーミ陶業株式会社

【会社概要】

◆大塚オーミ陶業株式会社（Otsuka Ohmi Ceramics Co.,Ltd.）

大塚オーミ陶業は、創造性ある陶板を通し、日本国内のみならず世界中の文化財、芸術作品を後世に伝えるほか、企業、各種団体などに対し、歴史・伝統を伝えるモニュメントや、空間を彩るアートワークの企画提案、設置など、人々の生活に豊かさと潤いを与え、貢献していくことを目指しています。

設 立 ： 1973 年（昭和 48 年）7 月

資本金 ： 3 億円

代表者 ： 代表取締役社長 大杉栄嗣（おおすぎ えいつぐ）

本社所在地：〒540-0021 大阪市中央区大手通 3-2-21

従業員数 ： 67 名 （2021 年 11 月 1 日現在）

事業内容 ： 大型陶板 陶板名画 陶壁 レリーフ テラコッタ OTセラミックス
肖像陶板 サイン陶板 各種設計・デザイン・製作・施工

URL ： <https://www.ohmi.co.jp/>